

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

# Osaka National Hospital



独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターニュース

# News

No. 70

令和3年1月

このニュースは、年4回、  
大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。  
詳しいお問い合わせは  
地域医療連携室までお寄せください。



## 目次

### 地域医療連携室より

- ・ 新任及び退職医師のお知らせ ..... 2
- ・ 講演会のご案内 ..... 2

### 2021年 新年の挨拶 ..... 3

### 病院のトピックス

- ・ 平尾素宏副院長 就任のご挨拶 ..... 5
- ・ 渋谷博美統括診療部長 就任のご挨拶 ..... 6
- ・ 西川和宏上部消化管外科科長 就任のご挨拶 ..... 7
- ・ ダヴィンチXiロボット支援下手術始動 ..... 8
- ・ 緩和ケア研修を受講して ..... 9
- ・ 脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内 ..... 10
- ・ NHO PRESS ～国立病院機構通信～について ..... 10
- ・ がん相談支援センターのご案内 ..... 11

独立行政法人 国立病院機構 **大阪医療センター**

**地域医療連携室** 令和3年1月発行 70号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14

TEL.06-6946-3516

☎ 0120-694-635

FAX.06-6946-3517

[HP] <https://osaka.hosp.go.jp>

[E-mail] [408-comonh@mail.hosp.go.jp](mailto:408-comonh@mail.hosp.go.jp)

## ～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

## ～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

### 1) 政策医療の推進

- ・ 基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・ HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・ 3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・ 専門医療と総合診療の充実
- ・ 医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）



### 2) 高度先進医療への貢献

- ・ 技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・ 臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等その臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・ 臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

### 3) レベルの高い医療人を育成

- ・ 卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・ 卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・ 専門職の育成

### 4) 情報開示と情報発信

- ・ 透明性を保った情報の開示・発信

## 新任及び退職医師のお知らせ

### 新任医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
R3.1.1	整形外科医師	大西 厚範	採用
R3.1.1	専攻医（消化器内科）	三好 真央	採用

### 退職医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
R2.12.31	副院長	上松 正朗	退職
R2.12.31	専攻医（循環器内科）	井戸 允清	退職

## 講演会のご案内

開催日時	件名	内容	対象者
—	—	—	—

**開催場所** 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂 **アクセス** 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅①号出口すぐ

**問合せ** 地域医療連携室（電話：06-6946-3516）

# 2021年 新年の挨拶



2021年、新年のご挨拶を申し上げます。

今年は、明けましておめでとう、というべきか迷いましたが、職員すべての部門で新型コロナウイルスにも対応しながら無事新年を迎えることができたことを祝いたと思います。年末年始をステイホームで過ごされた方も多く、例年なら当たり前のように行っていた忘年会、新年会、新年一同に介した互礼会などもほとんどが中止になっていますが、まだしばらくは医療崩壊を招かないようしっかりと個人個人が感染対策をし第3波終息に向かっていかなければなりません。

今年は十干十二支で辛丑（かのとうし）、辛は草木が枯れ新しくなろうとしている状態、丑は種から芽が出ようとする状態だそうで、新しい出発、変革の年となりそうです。すでに昨年、診療においても感染対策の特例として始まった電話診察が初診にまで拡大する動きがありますし、実習、講義、セミナー、会議、研究会、学会、1：1の面談までがWEBで行うことが普通になりました。皆で集まらないとできないと思っていたこと、これまで漫然と継続していた定例会議、訪問しないと失礼にあたると思っていた面談、など必要性を再検討し、また実際にWEBでやることにより時間節約にもなり、働き方改革にも繋がる新しい展開を生んでいます。この流れは、新型コロナウイルス感染症が落ち着いても多くの部分で残り定着するでしょう。今於かれている状況は依然大変厳しいものがありますが、欧米ではすでに新型コロナに対するワクチン接種が始まり、日本でも今年前半で多くの方々が接種をされることでしょう。まだ副作用については十分わかっていない点もありますが、治験では有効性が高くその効果に大きく期待したいところです。60年前の1961年辛丑（かのとうし）には、ガガーリンが宇宙飛行で「地球は青かった」、坂本九の「上を向いて歩こう」が大ヒット、野球では長嶋と野村が活躍しMVPとなっています。2021年、大阪医療センターも新しい出発、変革の年、そして上を向いて走りたいと思います。

今年もどうぞご支援のほど宜しくお願い致します。

独立行政法人 国立病院機構

大阪医療センター 院長 是恒 之宏

# 2021年 新年の挨拶



新年おめでとうございます。

皆様には、平素より地域医療連携にご協力いただきありがとうございます。  
ございます。

昨年2020年は世界中が新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対応に追われた1年でした。当院は緊急時支援病院として当初より重症患者を受け入れてまいりましたが、そのため救急診療や画像検査等の受け入れを一時制限せざるを得ず、ご迷惑をおかけいたしました。そして秋からの第3波では大阪府の強い要請を受けて重症患者受け入れを増床し、完全予約制の発熱外来を開設するなどできるかぎりの対応をまいりましたが、病棟の一部縮小など診療体制の制限を余儀なくされております。また例年定期的で開催してまいりました市民向け講座「おおさか健康セミナー」や、医師・医療者向けの学術講演会「法円坂地域医療フォーラム」も、残念ながら3月以降は開催を見送らせていただきました。COVID-19の一刻も早い終息を願いつつ、本年も地域医療を担う皆様方とともに当院の役割を果たしてまいりたいと存じます。

さて、大阪医療センター地域医療連携室では、患者さんや地域の医療施設の皆様のご利用に資するよう、診察予約や医療相談等に専任の担当者を配置し業務内容の向上を目指しております。外来診療予約では、FAX予約に加えて、インターネット予約サービスを導入いたしました。ご利用の施設も徐々に増えてまいりました。医師指定予約も可能でスムーズな外来予約をしていただけますので、是非一度ご利用をお願いします。また医療相談室では患者さんの療養上の不安や悩みにおこたえしております。特になん相談支援センターではがん患者さんやご家族のさまざまなご相談に対応しております。ますます高まっているニーズに対応できるよう、医療ソーシャルワーカーによる支援体制を充実させてまいります。

本誌ONHニュースは、当院から皆様への情報の発信・共有を目指し、本年も年4回発行する予定です。当院の専門性の高い最新医療情報をご紹介しますとともに、当院の行事や新任医師の紹介、外来担当医の変更等の情報をお届けしてまいります。

最後になりましたが、旧年中に賜りましたご支援に感謝申し上げますとともに、本年も大阪医療センターとの地域医療連携にご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構

大阪医療センター 地域医療連携推進部長 巽 啓司



## 副院長 就任のご挨拶

1月より国立病院機構大阪医療センター副院長を拝命しました平尾 素宏です。専門は、胃や食道の上部消化管疾患にたいする外科診療です。本籍は岡山県赤磐郡（現在の岡山市東区）ですが、生まれも育ちも兵庫県です。令和元年春より統括診療部長として勤務し、外科総括部長を併任しています。

去年は新型コロナウイルス感染症というパンデミックの状況下で、医療体制も大きく変わりました。そして、我々医療者にとって、新型コロナ感染診療と非コロナの通常診療を両立しなければいけない重要性を、強く感じた一年であったといっても過言ではありません。今後もこの診療の両立を、長い時間を通じて継続していかなければならないでしょう。

最近の社会の高齢化に伴い、併存疾患を持つ患者さんも増えています。大阪医療センターは高度総合医療施設として各診療科や院内各部署の協力を得て、様々な合併症を持つ患者さんにも最適な治療を行える体制を整えています。また、昨年末に手術支援ロボットの“ダ・ヴィンチ”を導入しましたので、泌尿器科、外科、そして婦人科を中心に、精緻かつ安全・安心な手術を多く手がけていきます。

現在、医学の進歩とともに、医療も日々変化しています。しかし、我々臨床医の基本姿勢は、「治療を必要とする目の前の患者さんのために最善の治療方針を熟考し、治療を施す」ことで、変わることはありません。その「最善の治療」を施すためにも、大阪医療センターでは、標準治療の確立と先進医療の開発を目的として、多くの臨床研究・治験を行っています。今後も引き続き臨床研究も推進してまいりたい所存です。

そして、大阪医療センターという第一線の医療機関が初期研修医や専攻医（後期研修医）の教育の一端を担うことは、優れた臨床医を育成するうえで非常に大切だと思っています。そのため、初期研修医・専攻医と各診療科の専門スタッフ医師たちが、ペアを組んで患者さんの診療にあたっています。また、当院は充実した初期研修プログラムと多くの後期専門研修プログラムを有し、スペシャリスト臨床医を育てていくよう努力しています。

最後に、我々は地域医療施設との連携をさらに深め、外来入院患者数のさらなる増加を目指します。前述しましたように、当院の診療の特徴として、合併症を持つ患者さんも積極的に受け入れていることがあります。院内各科や各部署の協力を得て治療成績を向上させ、全国で患者信頼度・満足度トップの病院に築き上げていきたいと考えています。今後とも、何卒よろしくご挨拶申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター  
副院長 平尾 素宏



## 統括診療部長 就任のご挨拶

令和3年1月1日付で国立病院機構大阪医療センター統括診療部長を拝命いたしました  
渋谷博美です。

麻酔科専門医です。当院の麻酔科は、手術に来られる患者さまが安全に手術を終えて快  
適に目覚める麻酔を心掛けて、各診療科と常に情報共有しシームレスな医療を行って  
おります。

また、昨年12月末までの約4年間、職員研修部長をさせていただいておりました。

初期研修医が臨床研修修了までの2年間に、厚生労働省が定めた「医師が、医師として  
の人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的  
役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できる  
よう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身に付けることので  
きるものでなければならない。」という臨床研修の基本理念に基づいた研修がでるよう、  
サポートしてまいりました。また、それに加えて、私は初期研修医に、医学知識や手技を  
取得するだけでなく、患者様の話に耳を傾けるやさしい医師になってほしいと事あるごと  
に伝えてきました。笑顔の少ない研修医には、あなたの笑顔は素晴らしい！時には患者さ  
んの気持ちを落ち着かせるサプリメントになるから、と、微笑むことの指導をすることも  
ありました。

大阪医療センターは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより  
信頼される病院を目指しております。患者さまやご家族が安心して暮らせる地域社会の実現  
のために、大阪医療センター地域医療連携室では従来のFAXでの予約に加え、インターネ  
ットによる予約受付も行っております。

当院と地域の医療施設の連携を益々強化し、満足していただけるよう、努力する所存で  
ございます。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター  
統括診療部長 渋谷 博美



## 上部消化管外科科長 就任のご挨拶

地域連携として病々連携や病診連携において、平素より大変お世話になっております。

この度、1月1日より上部消化管外科科長を拝命致しました西川和宏（にしかわかずひろ）でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私は、2013年に大阪医療センターに赴任し、外科スタッフとして勤務してきました。胃や食道といった上部消化管の治療を専門としています。専門領域において、さほど進行していない患者さんには腹腔鏡（胸腔鏡）下手術を行い低侵襲で優しい治療を目指し、神経や幽門を温存した機能温存手術にも取り組んでまいりました。さらにロボット手術も取り入れていく準備を始めております。また、進行した患者さんには、化学療法や放射線療法と外科療法とを組み合わせ、個々の患者さんに最適な「あきらめない」治療を提供してまいりました。さらにより良い治療を行うことを目的として、科学的根拠に元づいた最良の治療法を確立するための多くの臨床試験や治験に積極的に参加することで、先進的な取り組みも積極的に行ってきました。

今後は上部消化管外科を率いる立場となり、今まで行ってきた長所は保ちながら一歩でも前に進めて参りたいと考えております。外科の他領域のみならず、他科とも緊密な連携が取れておりますので、安全安心な医療を届けられるように注力していく所存でございます。

ご存じのように現在は高齢化社会となりつつあり、医療を取り巻く状況は変化してきております。上部消化管外科領域においても同様であり、個々の医療資源を効率的に活用して、いかに地域の先生方とスムーズな連携をしていけるかが重要と考えております。現在新型コロナウイルスにより大変な時期でございますが、そちらの治療・予防対策についても病院の総力をあげて万全を期してまいります。今まで以上のご指導・ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

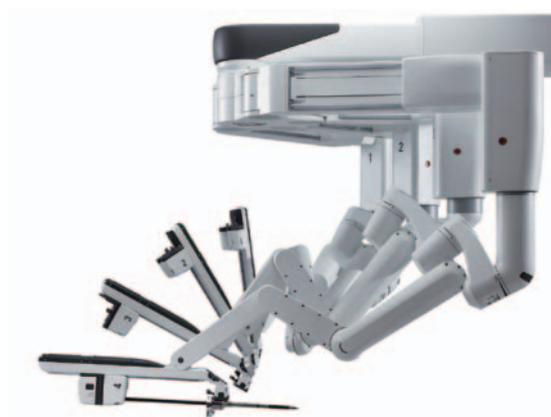
独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター  
上部消化管外科科長 西川 和宏

# ダヴィンチXiロボット 支援下手術始動



国立病院機構 大阪医療センター 泌尿器科科長 西村 健作

平素より地域医療連携にご協力いただきありがとうございます。大阪医療センターにおいて新型コロナウイルス感染症と通常診療とのバランスを保ちながら刻々と変化する状況に対峙しています。コロナ渦でより高い質の医療をより安全に提供できる環境を整える重要性を痛感する毎日です。



ダヴィンチXi

ついに2021年1月からダヴィンチXiシステムによる低侵襲ロボット支援下手術が始動いたします。ロボット支援下手術は2012年前立腺全摘除術、2016年腎部分切除術、2018年には泌尿器科のみならず外科、婦人科、心臓血管外科領域で新たに12術式が保険収載され、2020年には全21術式が保険適応となっています。日本では2019年泌尿器科領域において前立腺全摘除術は年間2万例の80%、腎部分切除術年間5000例の50%がロボット支援下手術で施行されており、すでに標準治療となっています。

ロボット支援下手術は腹腔鏡手術と同じように小さな切開創で、外科医の操作に従って内視鏡・メス・鉗子を動かして行う内視鏡手術です。ダヴィンチXiサージカルシステムはより複雑な手術を可能とするため開発され、2015年に運用開始となっています。

高画質で立体的な3Dハイビジョンシステムの手術画像のもと完全に医師の操作によって人間の手の動きを正確に再現する装置です。術者は回転する手首を備えた鉗子を使用し、精緻な手術を行うことができます。

大阪医療センターでは2021年1月から泌尿器科領域の前立腺癌に対する前立腺全摘除術、腎腫瘍に対する腎部分切除術、2月から外科領域の胃癌・食道癌・直腸癌、婦人科領域の子宮良性腫瘍・子宮体癌に対するロボット支援下手術を開始いたします。今後その適応疾患はより広がるものと考えています。

ロボット支援下手術の導入でより精緻でより安全な治療を患者さんに提供できることは外科医にとって喜びであります。またこの導入が医師や看護師のみならず全てのスタッフにとっても意欲的に仕事に取り組める魅力的な環境を整えることで病院の発展につながるものと信じております。



シミュレーション風景

大阪医療センターは地域施設との連携のもとと質の高い医療を患者さまに提供することを目指しております。すべての患者さま・医療関係者に信頼される病院となるよう努力して参りますので、今後とも何卒よろしくごお願い申し上げます。

# 緩和ケア研修を受講して

国立病院機構 大阪医療センター 2年目研修医

例年は院外の先生方にも参加いただいている研修会ですが、今年度は新型コロナウイルスの感染対策として、院内の参加者を対象とした開催となりました。

医学生時代より循環器疾患、特に心不全に興味がありました。心不全とは心臓の機能が低下して体に十分に血液が送り出せなくなった状態であり、一度心不全を発症すると症状の増悪・緩解を繰り返していくうちに徐々に身体機能が低下し最終的に多くが死に至る病です。



今回、この緩和ケア講習会に参加しようとしたきっかけは初期研修のローテーションの循環器内科の2か月間で受け持った若年の特発性拡張型心筋症の1人の患者さんでした。その方を受け持つこととなったのですが、今まで心不全で入退院を繰り返しており昇圧剤を使用しなければいけないほどに心機能が低下していました。若年ですが、ほとんどベッドから動くことが出来ず、ふがいなさやぶつけようのない怒りを感じていました。病棟の看護師や医師にその矛先が向かうこともあり

ましたが、最終的に亡くなる間際には皆に感謝を伝えていました。その方に対して私が内科的な薬物治療の他に緩和ケアな側面からアプローチできたのではないかと考えたからです。



緩和ケアは言葉から終末期を想像しがちですが、決して終末期だけのものではありません。早期から緩和ケアを導入することで予後が改善すると報告されています。そのため、診断時より身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルペインといった全人的苦痛に包括的に評価し介入します。今回の講習会では、グループワークで同じ症例を様々な経歴の方々とディスカッションし、自分では気づけなかった「苦痛」を発見することが出来ました。しかし実際患者を受け持った際に、すべての「苦痛」に気づくことは不可能です。そのため、看護師・医療ソーシャルワーカー・医師・退院支援看護師など様々な職種でカンファレンスすることは非常に大切である改めて感じました。この経験を今後の将来に活かしていきたいと思います。



## 脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内

当院では、主に救急隊からの脳卒中・循環器疾患による患者搬送を受け入れできるよう、脳卒中・循環器ホットラインを設置しておりますが、本ホットラインは救急隊からの要請に限定したのではなく、広く各医療機関様からのご連絡も24時間お受けできる体制を取っています。

貴院かかりつけ患者様あるいは救急搬送された患者様で、脳卒中・心臓・大血管疾患の急変等が起こった際の搬送先として、当院のホットラインをぜひご活用ください。



独立行政法人 国立病院機構

**大阪医療センター**

〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL: 06-6942-1331 (代)

循環器ホットライン

**06-6946-3544**

循環器疾患24時間対応します。

脳卒中ホットライン

**06-6946-3543**

脳血管疾患24時間対応します。

医師及び消防局救急隊からの電話に限ります。

## NHO PRESS ~国立病院機構通信~について

大阪医療センターは、国立病院機構（NHO: National Hospital Organization）という141の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS~国立病院機構通信~』を発行しています。

ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、ぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



QRコード



NHO PRESS

検索

大阪医療センター

# がん相談支援センター

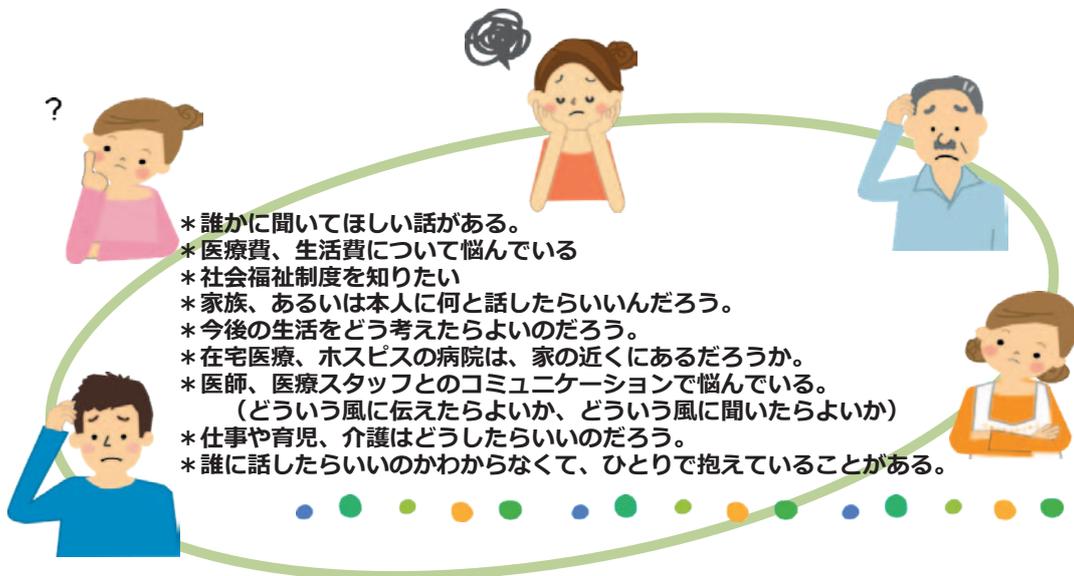
のご案内



患者さん・ご家族の皆さまが、治療を受けながら考えておられること、生活の中で抱えておられるお気持ち、などお話を聞かせていただくことにより、悩みやお気持ちの整理をお手伝いし、解決の糸口を一緒に考えます。  
お気軽にご利用ください。

相談料は無料で、相談内容における個人情報厳守いたします。

\* ご入院中の方は、ご希望により、病室までお伺いいたします。



相談にあたっては、患者さんやご家族のお考えやお気持ちを尊重し、できるだけみなさまご自身で問題の解決を図れるよう支援をいたします。

■ 大阪医療センター・がん相談支援センター ■

☎ 06-6942-1331 (代表)

[月曜日～金曜日] 9:00～16:00

外来休診日はお休みです

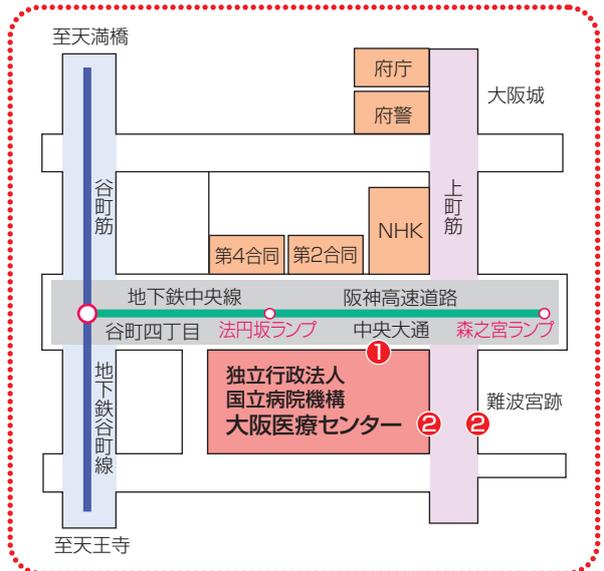
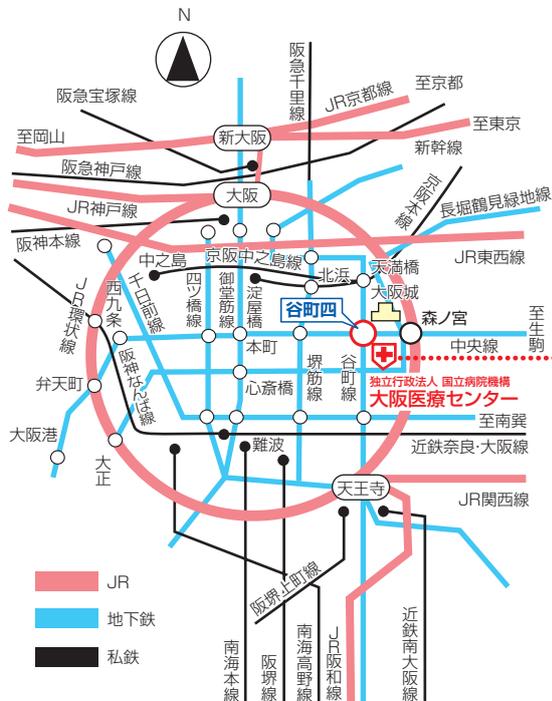
相談対応：看護師・医療ソーシャルワーカー



がん看護相談も  
やっています



## 交通のご案内



① 地下鉄「谷町4丁目」11番出口 ② 市バス「国立病院大阪医療センター」

### ■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

### ■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

### ■バス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

### ■マイカー・タクシー

・阪神高速 13号 東大阪線

▼環状線経由の場合

「法円坂」出口 上町筋を右折すぐ

▼東大阪方面からの場合

「森之宮」出口 中央大通り直進、上町筋を左折すぐ

・上町筋と中央大通りの交差点の南西角

・お車の出入口は上町筋です。